◇

器用な性だつたので、小細工物が巧みで、最負さんから貰つた金封や品書の目錄を、贈り主の名と共に切り拔いて、床本ほどの白紙の帖に貼りつけたのを保存してあつた。その帖末に金高の總計が上つてあつて、これが三年目毎に一冊宛出來る、生涯の物は勿論數冊になつてゐる。永久に冥加を感謝する意から、これを作つたのだそうだ。

豐竹三光齊

高野の山僧から出た

◇

詳細はわからないが、高野の山から下りて來て太夫になつたのは事實。始め京都に出て素人淨瑠璃仲間で延玉と稱してゐた。大阪での初舞臺は文久三年三月、道頓堀若太夫の芝居で『猿曳門出諷』の堀川の段を語つた。體格が巨大で頗る美音、猿廻しは特に好評。二代目豐竹麓太夫の門下だつた。

◇

床に上る前にグツと一息に二三合ひつかけて出るといふほどの大酒家。そのくせ、見臺に向つた以上は、扇を斜に構へて、身動ぎもしない、まことに行儀のいゝ語りぶりで、朗々たる美聲を搖り出して少しも動かず、ちつとも疲勞をするといふことがなかつた。

◇

若太夫の芝居で太十を語つた時、その大落しの聲が道頓堀を越して川向ふまで聽こえたといふことである。

以上の他にまだ〳〵名匠名星は群を爲してゐて

――四代目竹本綱太夫。江戸堀に住む、江戸堀の綱太夫、俳號四綱軒。美音家だが後に惡聲となる、而し名人。

――五代目豐竹若太夫。湯屋の三助から出たところ春太夫と同じ、始め黑冶といふ素人。竹田の芝居の櫓下となつた人。

═五代目豊竹湊太夫。音羽湊と稱して、世話語りの名人。染太夫死後文樂座の櫓下となる。
═七代目竹本咲太夫。世話語りの名人。
═三代目豊竹巴太夫。素人出身（是長）
═五代目豊竹駒太夫。美聲出身（三國）
═竹本越前大掾。初代津太夫、五代染太夫と改名。
═初代竹本大隅太夫。
═六代目竹本内匠太夫。
═三代目竹本津賀太夫。

などを數へることが出來るが、最後に變り種の大關株。

チヤリ語りの山城掾

『日本一滑稽物語』の大看板

◇

嘉永七年、嵯峨御所に召されて、═══何か珍らしいものを═══といふ御所望にまかせて『妹脊山婦女庭訓』を、おもしろい節をつけて、大序から大詰までを朗讀した。それが大いに御感を蒙つて、竹本山城掾の官名を賜つたのである。（而し後に藝人の名稱に國號を禁ぜられたので、山四郎と改めてゐた）慶長の昔德川家康の御前で、赤松法印が、太平記の講釋を遣つて大喝采を博し、軍談講釋の最初だと稱されたといふ、その故智を學んだのでもあらうか。

◇

『日本第一滑稽物語、竹本山城掾藤原兼房』といふ大看板を出して、赤の袴を着て、赤い見臺を控へ、坊主頭で床へ上つた、或時は